



No.25 学校図書館

2016年7月

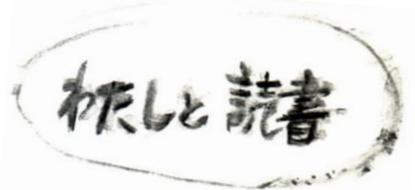
司書だより

図書館クイズ

東山動物園の人気者が絵本になるよ。タイトルは「シャバーニだいすき」です。

さて、この人気者とは、いったいどんな動物？

- ① ゾウ ② コアラ ③ ゴリラ



本にささえられて

福田 美津枝

子どもの頃から本を読むのが好きで、今でも私の楽しみの大きな一つは、

読書です。朝、目覚まし時計が鳴ってから、起きだすまでの三十分、一時間くらいが、私の読書タイムです。

田舎に住んで、家事と家族の世話や畑仕事に明け暮れる私が、本を読むことで、カナダやイギリスの平原を駆けめぐる夢いっぱいの子になったり、江戸時代の長屋に住むおかみさんや十手持ちになったり、東京やニューヨークなどで、朝から晩までスマホやインターネットを操る企業マンやキャリア女性になったりと、様々な人生を体験できます。

そればかりではなく、ドキュメンタリーやノンフィクションを読めば、世の中の仕組みや、それにほんろうされる人たちの有り様、理不尽さや悲しみ、苦しみを乗り越える姿などから、生きることの意義を知り、勇気を得られます。

小説や物語からも、暮らしていく上での大切なことをたくさん学びました。悲しい時、淋しい時、苦しい時にも辛い時にも、今

まで読んできた本の中の人たちから、元氣や慰め、いたわり、共感等を与えてもらってきました。

今、地元の保育園や小学校で、読み聞かせをさせてもらうようになり、子どもたち向けに、こんなよい本がたくさんあるのだと知りました。

孫たちが保育園や小学校で借りてくる本と一緒に読んだり、時々寝る前の孫たちに、一冊ずつ読んでやったりします。その中で、孫たちが気に入った本や、読み聞かせのお仲間が読まれて、共感した本などを手に入れるようにして、家にもずいぶん絵本が増えてきました。

体や心が疲れた時、気持ちが落ち込んでいる時、なかなか寝つけない時など、絵本を広げると気持ちが休まります。文字を読みたいつなげて、情景や心理状態などを思い描くことが困難な時でも、目の前にそのま



まの情景がやさしく広がる絵本は、気持ちを和ませてくれます。親子文庫や図書館で、読み聞かせ用の本を選ぶ時には、一緒に、

自分用の絵本も選んで楽しんでいます。

福田さんは、生涯学習審議会、図書館協議会の会長として、市立図書館の運営に関わってくださっています。

長年にわたり、伊深の子たちの読書活動を支える「伊深親子文庫」の代表として、文庫の運営と、伊深小学校やほくぶ保育園での読み聞かせを続けておられます。

夏休みは図書館へ

7月と8月は、中央・東図書館とも朝9時30分の開館となります。閉館は、平日は 中央図書館 午後6時、東図書館 午後8時です。
(土・日・祝日は、両館とも、午後5時15分まで)

図書館まつり(楽しい催しがいろいろ!)

- ☆中央図書館 7月23日(土)～8月10日(水)
お話ランド夏企画・一日図書館司書体験
写真家「大西 暢夫」講演会
 - ☆東図書館 7月23日(土)～26日(火)
バスボム作り・人形劇・映画会・歌の集い
一両館にて、手づくり絵本展・雑誌のリサイクル
 - ☆北部分室まつり 8月16日(火)
* 北部分室まつりのみ申込み、参加料が必要です。
- くわしい内容は図書館までお問い合わせください。
中央図書館：257316 東図書館：263001

図書館クイズの答え

③ ゴリラ
イケメンゴリラとして大人気だそうです!

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました



「たいせつなともだちとさよならしてさびしかったけど、ふくろうのおしえてくれたみつつのことができたから、もう泣かないよ。」

「また、図書館で借りて読んでみたいですよ。」

今年の人形劇「いつだってともだち」を見た後の子どもたちから届いたうれしい感想です。

私たち、劇団「はらぺこ」は、市内の小学校、図書館、公民館などで、(ときには市外でも)年間十五から二十回、絵本や童話をもとにした大型ペープサート劇を上演しています。最初に作ったのがエリック・カール作「はらぺこあおむし」だったので、この劇団名にしたのです。

脚本を書く人、挿入歌を作曲して歌い音楽構成をする人、臨場感たっぷり語る人、大道具・小道具を工夫する人、



素晴らしい絵を描く人、と、それぞれの得意分野を生かし、質の高いものにしようと意見を交わしてつくりあげていきます。

子どもたちの笑顔と「楽しかったよ」「またきてね」の言葉に励まされて、早や二十五年目を迎えました。「フレデリック」「みどりいろのたね」「ぼくお月さまとはなしたよ」「ほねほねきよりゅうのほね」「このつぎなあの山」「ジャイアント・ジャム・サンド」「三びきのやぎのらがらどん」…



「見たよ!」というお子さんと、「覚えてるよ」と懐かしく思い出してくださいるお父さん、お母さんもしらっしゃるのではないのでしょうか?

劇団「はらぺこ」

子どもたちが「はらぺこ」との時間をとおして、絵本や物語の楽しさを感じ、本を好きになってくれること、美しい場面や言葉の心地よさを味わい心豊かに育つてくれること—それが私たちの一番の願いです。

劇団「はらぺこ」

二十五年のあじと展

東図書館 8/21(木)~8/28(日)

「はらぺこ」と楽しい時間!

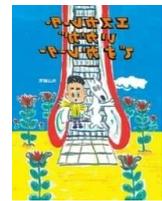
二十五周年記念公演

東図書館2階ホール

8/28(日) 14:00~15:00

人形劇に、歌、パネルシアター、おみやげづくりもあります。ぜひお出かけください

えほん



「エスカレーター」いかがすかレーター?」

丸山誠司作 絵本館

1300円+税

突然によきによきと生えてきたエスカレーター。乗ったが最後どんどん伸びて、ぐるぐる、ジグザグ、ぶくぶく潜った

り! 乗り心地はいかがですかレーター? 到着したのは何の店? 何度も読んでつい癖になってしまふのですカレーター。

「しっぱいにかんぱい!」

宮川ひろ作

講談社 1100円+税

達也のおねえちゃん、加奈は6年生。運動会のリレーのアンカーで失敗を。何も食べられないほど落ち込むおねえちゃん。そんなおねえちゃんが、失敗のシヨックから立ち直るまでを描いています。「失敗して大きくなるんだし、

時がたつと、失敗がいい思い出になるんだね」おじいちゃんのさりげないサポートが素晴らしいです。「かんぱいシリーズ」おすすめです。



この本読んでみて!

小説



「川の名前」

川端裕人作

ハヤカワ文庫 700円+税

夏休み、5年生の4月に転校してきた

た脩(シユウ)はゴム丸と、河童の三人で自由研究のテーマを近くの

の桜川に決めた。不思議な足跡を追ううちに保全地の池に棲むペンギンを見つけ、それが川をめぐる冒険に! 身近な自然と人とのつながりを教えてくれる夏にぴったり物語。カワガキ隊に拍手!

大人が

「田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」」

渡邊格著 講談社

1600円+税



マルクスの資本論を読むのは大変ですが、田舎のパン屋タルマリーがめざすものはわかりやすい。子どもたちに働く姿をみせ、地域でお金を回す。働くということは

どういうことかを、読みながら、自然の摂理のすこさを知る。